

豊かな森を未来にのこそう

# もりのかぜ だ・よ・り

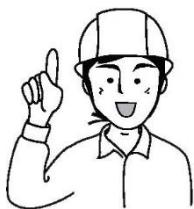
No.50 新年号

認定特定非営利活動法人 森林の風  
会長 瀧口邦夫/令和7年12月発行



2026年新年号は、発刊から数えて50号となります。今回の表紙は過去の表紙で飾ってみました。これからも「もりのかぜだより」をご愛読いただければ幸いです。

第50号  
ラインナップ



- 2026年新年号ご挨拶 ----- ②
- レベルアップ研修会 報告 ----- ③④⑤
- 御在所岳頂上植生回復活動について ----- ⑥
- 木の見本について紹介 ----- ⑦
- 森林の風からのお知らせ ----- ⑧
- 森林の風 現在の状況 ----- ⑧

森林施業 認定NPO法人



連絡先/〒512-0933 三重県四日市市三滝台4丁目15-7 TEL059-321-7719 携帯電話090-9663-4088  
菰野事業所/〒510-1251 三重県三重郡菰野町千草7045-82

<http://www.morinokaze.info> \*詳しくは、ホームページまたは上記まで問合せください。

## ◆ 2026年 新年号ご挨拶

認定 NPO 法人 森林の風 会長 瀧口邦夫

2025年は、森の活動には異常な天候であった。夏が暑すぎ活動の休止の影響が10月からの3か月に集中した。森林整備の1年間計画は四季に対応していたが2季に対応する必要が出てきた。四季を楽しみ、季節と対話しながら森林づくりを計画してきたが、思い切った作業変更を考える必要がある？

春夏は、測量や選木、苗木の育成、人材育成、イベント準備、各森林教室などを中心に。秋冬は、伐採、除伐など森林内の整備作業に集中する。

最近、街で時計を見なくなった。公衆電話も消えている。

外食では、アイパッドとの会話？大切なコミュニケーションが消えているのです。スマホの無い世界が懐かしい？？少し悲しい気もする。

森林活動で森に行くときはスマホの電源を切ることにしたい。鳥の声を聴き川の音を聞き 湧水を味わい 風を肌で感じて チェンソーのエンジン音を楽しみ 森を満喫すれば、理想の森へ近づけるかもしれない。野生動物が住居地区に出てきて、毎日のようにニュースになる。70年ほど前に植林した森が、荒れていることも事実である。もくもくと森林整備に励み、森を楽しめる環境を目指したい。ともあれ健康第一で森に行こうではないか。



### ★コラム：50号発刊にあたり

「もりのかぜだより」第1号は設立5年目の秋、2009年9月11日に発刊されました。

設立から5年目という時期は、活動拠点である「みえぎんまなびの森」（現在は、三十三銀行まなびの森）の整備が整い、NPOとしての活動にも概ね方向性が定まり始めたころだと伺っています。

記事の中には、「そうだ、葉っぱを売ろう」と題して当時大きな話題となっていた徳島県上勝町の彩（いろどり）事業の見学報告が載せてありました。高齢者の働き方の一つのアイディアとして当時の新聞、テレビ等のメディアでも紹介されていたと記憶しています。

このことは、60～70代が中心で活躍する森林の風にも通じるものがあり、政府の進める形とは全く異なる高齢者の働き方改革だと感じています。

それから16年が過ぎ、やっと50号を発刊することに至りました。

創刊号から記事の大部分は、我々の活動内容を報告する形をとっていました。

これからも時間はかかりますが、森林の風の活動を多くの読者に理解していただけるよう編集作業に勤め、いつの日か100号をお届けできる日を信じて邁進してまいります。



※「もりのかぜだより」第1号から49号までは、すべてウェブサイトからダウンロード可能です。是非ご一読を！！

## 第1回 レベルアップ研修会

奥琵琶湖山門水源の森を訪ねて 2025/8/2 (土)

報告

奥びわ湖・山門水源の森は滋賀県北部の長浜市西浅井町山門（やまかど）にあり、かつては山門、中、庄の3集落の共有林で、炭や薪を作るために利用されてきた里山です。平成7年に滋賀県が公有化し、里山の森に囲まれた滋賀県内最大級の湿原でありハイキングや自然観察ができ、ミツガシワやカスミザクラ・ササユリ・サギソウ・ハッショウトンボなど貴重な動植物が多く、春は桜、夏は新緑、秋は紅葉など四季を通じて楽しめる特徴ある生態系の広がった森です。

また、山門水源の森は、日本の水源の森100選（林野庁）、日本の重要湿地500（環境省）、山門湿原ミツガシワ等生息地保護区（滋賀県）に指定され、この森林を保全するため、保全活動団体、地域住民、行政の連携による様々な保全活動が行われています。



さて今回、森林の風一行は、午前11時頃、山門水源の森に到着しました。散策ルートとしては、森を一周する「ブナの森コース」約4kmを選択。真夏の酷暑の中、頂上の「守護岩」を目指しました。

強烈な日差しも山門の森に遮られ、心地よい木漏れ日の中を最初の目的地「山門湿原」に向かいました。水源から湧き出るせせらぎ沿いのトレイルでは、十分なマイナスイオンを浴びながら湿原までたどり着きました。ここで休憩を取り、昼食タイムとしました。

登山道の途中で小さなビューポイントで記念撮影、その後、一気に守護岩まで登りました。守護岩周辺ではブナ林の広がりを楽しむことができました。

守護岩からは、一気に下山。3時過ぎに帰路につきました。前日の気温の高さに心配していましたが、林内は比較的気温も抑えられ熱中症にならず、無事、かえってきました。



## 第2回 レベルアップ研修会

東大名誉教授 太田猛彦先生によるネイチャーポジティブ 時代における森林管理とは

2025/9/7 (日)

報告

太田猛彦先生は、東京大学名誉教授で、東京都出身。現在、FSC ジャパン議長、かわさき市民アカデミー学長、森林保全・管理技術研究所代表理事、さいたま緑のトラスト協会理事長等を務めておられます。

元職では、日本学術会議会員、日本森林学会会長、砂防学会会長、日本緑化工学会会長、林政審議会委員等を歴任。著書も多数で、「森林飽和－国土の変貌を考える」(NHK 出版) は分野を越えて多くの人に読まれています。



また、みえ森林・林業アカデミーにおいて、平成31年4月の開講から令和7年3月まで学長を務められ現在は名誉学長として在籍されています。そんなご縁もあって、今回、レベルアップ研修会の講師をお願いしました。

午前中は、「森林飽和と土砂災害」と題して、日本の森林と土砂災害の歴史的変遷及び現代の地球環境問題と森林管理などについてお話ししていただきました。特に「森林飽和」に書かれている日本の森林の変遷については林業にかかわる者として常に見つめ直さなければならない内容だと思いました。

午後からは、「森林管理と林業：ネイチャーポジティブの時代に考える」と題して森林の多面的機能とネイチャーポジティブ及び「新しい森林の原理」に基づき、木材利用と環境保全の両立を図るなどのお話をいただきました。ネイチャーポジティブ自体が新しい概念であり、経済活動とはかけ離れた内容に感じられどのように対応していくべきなのか今後の課題であると思いました。

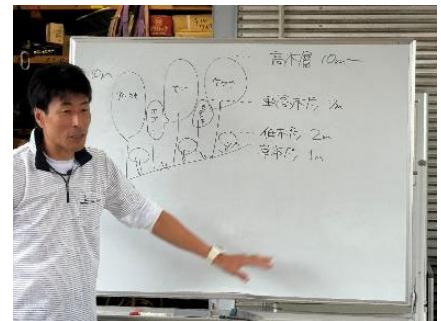


翌日、太田先生の希望もあり御在所岳にご一緒させていただきました。登りのロープウェイで周辺の山々を見ながら特に尾根沿いのスギに疑問を持たれました。後からロープウェイの担当者にお聞きしたところ山頂周辺には三か所の湧水があり池を形成しているところもありますとの事。場所によっては、水分供給が潤沢なポイントがあり、スギの生育条件が満たされているのだろうと結論付けられました。

また、御在所岳頂上では、森林の風が行っている山頂周辺植生回復事業の施行地をご見学いただき、楽しいひと時をお過ごしいただけました。



林将之先生は、1976年、山口県田布施町生まれ。このきなんのき研究所所長。千葉大学園芸学部卒業で造園設計を学んでいた学生時代に、既存の樹木図鑑が分かりにくく疑問を抱き、葉で木の名前を調べる方法を独学、東京の出版社に勤務後、2002年に独立しフリーランスに。葉をスキャナで直接取り込む撮影法を開発し、全国の森で10万枚以上の葉を収集＆スキャン。初心者にも分かりやすく木や自然を伝えることをテーマに、執筆、編集、DTPデザイン、植物調査、観察会、講演会などを行っています。著書は20冊以上。デビュー作『葉で見わかる樹木』(小学館)は図鑑分野のベストセラーとなっています。



今回で、3回目（年1回）の講座となり、森林の風の施業地である「ダイダンの森」の植生調査をお願いしました。

植生調査の調査位置は、8年前に設置したニホンジカの食害防止柵（パッチディフェンス）内とそれ以外の場所2か所を行いました。

まず、午前中1時間程度、植生調査の基本的な考え方及び方法について説明していただきました。その後、ダイダンの森に移動して、①パッチディフェンスを設置したところ（6m四方のコドラー（調査範囲）を設置）と、隣接するそれ以外（10m四方のコドラー）のところで2班に分かれて植生調査を行いました。調査項目は、樹高別に高木、亜高木、低木、草本に区分して行いました。

午後には、調査した植生について、不明であった樹種について撮影してきた写真をもとに特定し調査票の整理と、植生断面図の作成実習を行いました。

整理した結果の樹種数を表したものが下表となります。

### 調査結果（概要）

調査地	調査面積	高木層	亜高木層	低木層	草本層	合計
①パッチディフェンス内	6m×6m	1種	4種	17種	22種	44種
②なし	10m×10m	2種	3種	4種	30種	39種

調査結果から、パッチディフェンスを設置したエリアでは、調査面積が狭いにも関わらず44種の植物が確認できました。単純に面積比を考慮すると約3倍となります。特に低木層においては17種とパッチディフェンスなしのエリアの約6倍（面積比を考慮すれば約18倍）を数えることができました。

のことから推測できることとして、実生から育つ間の食害がいかに酷いかということを物語っていると考えられます。このニホンジカによる食害は、人工林においては重大な問題となっていますが、森林の風が植生回復を行っている高山、自然公園等でも植生の衰退による土砂崩れ等の被害も報告されており、今後も注視していく問題だと思います。

## ◆ 御在所岳頂上植生回復活動について

三重県北部に位置する標高 1212m の名峰「御在所岳」は、モミジ、ミズナラ、シロモジ、ヤシオツツジ、ドウダンツツジなどが新緑、紅葉、そして美しい花の開花等、四季を通じて親しみ楽しめています。しかし近年ではニホンジカの増加に伴い、その食害である樹皮剥ぎで樹木が枯死する大きな被害が出ています。また、種子から芽生えた実生も食害を受け、年々、荒廃が進んでいます。

森林の風では 2010 年より、国定公園内である現地において、三重県の許可を得て採取した種子や実生を育て頂上付近の環境回復を目的とした植樹活動を行っています。

## 令和 7 年度 活動報告

## 2025/9/23 御在所岳植樹体験イベント

御在所岳ロープウェイ主催の植樹体験会を実施しました。今回は、崩れた歩道跡にアセビ、ミズナラ、ドウダンツツジなど 100 本を植樹しました。参加者は、当日の登山客から参加を求める 21 組 36 名の方に植樹体験をしていただきました。

(このイベントには、三重県の森林環境譲与税が使われています。)



## 2025/9/27 三十三銀行御在所岳植樹イベント



三十三銀行さんは、毎年、御在所岳頂上における植樹イベントを開催しています。これは、社員対象のイベントで今年度も、42 名（大人 21 名、子供 21 名）の参加をいただきました。ミズナラ、アセビ、ヤシャブシを 100 本植樹しました。



御在所山頂エリアにおける植生回復にはとても多くの時間と費用が必要となります。この活動は企業及び個人の皆さんのご寄付等によって成り立っています。今年も約 200 本の植樹を行いました。

アプライドマテリアルジャパン(株) 様からの寄付金は、このプロジェクトに使わせていただいております。また、このプロジェクトにご興味がございましたら、「森林の風 事務局」までご連絡ください。

## ◆ 木の見本について

森林施業 認定NPO法人 森林の風



## ~木にさわろう~



木の見本は、森林の風が小学校等で森林環境教育を実施していく中で発想されたアイテムです。

屋外での観察会なら見て触れることが可能ですが、教室で図鑑を見ながらでは実際の樹木の質感は創造できない。そこで、手ごろなものを集めてはどうかとなり、施業の合間に直径8~10cm程度の木を探しては、見本となりうる材を集めました。総数は30種程度集まりました。

それを、約20cmの長さに合わせ、真ん中から2つ割りにし、樹皮と木部の観察が可能な標本を作製しました。これを、子供たちの環境教育の教材としたところ、初めて触る木の感触にいろいろな感想をいただきました。手に取ることでそれぞれの重さも実感でき個々の木の特徴を言葉ではなく触ることで理解できる教材となりました。

(右図参照)

この「木の見本」の一部（8種類）が、[中部電力の「でんきの科学館」](#)に展示されています。

今年の夏休みに見学に伺ったのですが、多くの子供たちが木に触れ楽しんでいました。来館した多くの子供たちは、樹皮と木肌の手触り、色、質感の違い、それぞれの重さなどをどのように感じていたのでしょうか、また、個々の木に親しみを感じていただけたでしょうか、とても興味がありました。今後は、中部電力さんと協力してアンケート調査の実施ができたとと考えています。多くのお子さんの意見を取り入れ、この「木の見本」も次のステップへと繋げられたらと考えています。



## ◆ 認定 NPO 法人森林の風からのお知らせ

来年度（2026 年度）の「まちの木こり人育成講座」は、下記のとおり開催いたします。

導入編	「森林の風」のフィールドへようこそ！	水源の森プログラムの紹介	参加費
3/15(日)	森林への思い！／里山を歩き、これからの森づくりについて考える。（参加自由）		1,000 円(税込)
第1回 4/5(日)	きこり体験。 のこぎりを使って木を伐る。木の伐り方、倒し方、枝打ちなど	ノコギリを使った伐木、枝打ち体験	参加費(全 7 回) 20,000 円(税込)
第2回 4/12(日)	森を測る。 森づくりの第 1 歩。コンパス測量、標準地調査と選木、森のデータ化。	測量・標準地調査	
第3回 4/19(日)	チェンソーに触れる。 チェンソーの取扱い、メンテナンス、安全性・危険性を学び、実際に使ってみる。	チェンソーの取扱い・目立て	
第4回 5/10(日)	チェンソーで伐る。① 水平切り・受け口・追い口を徹底的に練習していただきます。	チェンソーによる伐木の練習	(外部講師予定)
第5回 5/17(日)	チェンソーで伐る。② 実際の立木を伐倒、玉切り、枝払い、の特訓(チェンソーワークの体得)。	チェンソーによる立木の伐倒	
第6回 5/24(日)	チェンソーで伐る。③ 掛け木処理等、牽引具などの道具を使っての伐倒。	道具を使った伐倒・搬出	(外部講師予定)
第7回 6/7(日)	安全・衛生講習 森林整備での健康管理、危険な植動物の学習。救命救急講習等を行います。	安全講習・救命講習	(外部講師予定)

## 森林の風 ～最新データ～

## 2025 年 11 月 30 現在

◆取組事業総数	27
◆活動フィールド	人工林 6
	里山整備 7

## ◆フィールド総計 約 80ha

## 2025 年度 4 月から 11 月の累計

◆活動日数	101 日
◆会員延べ参加数	889 人
◆延べ受益者数	1004 人

## 設立来累計

◆植樹数	約 13,300 本
------	------------

森を守り育てる活動にご協力下さい。

年会費 (賛助会員)	個人 1 口 3,000 円 法人 1 口 10,000 円 より
特典	年 3 回発行の機関紙「森林の風だより」 や各種案内を送付させて頂きます

加入者名：特定非営利活動法人 森林の風

郵便振込：00830-4-159060

通信欄に、おとこ、おなまえ、ご連絡先電話番号を  
ご記入ください。

## 2025 年度寄付金一覧 (12 月現在)

アプライドマテリアルジャパン(株) 500,000 円

※ご協力ありがとうございました。